

宝山郷の概要

宝山郷は台湾の北西部に位置し、阿蘇くまもと空港からの定期便が就航予定の桃園空港から車で約1時間ほどの距離にあります。

宝山郷の最初の地名は「草山」で、原住民(タイル族)が住んでいた場所でした。1920年に州と郡の制度を導入した際、今後の発展を願い「宝山」と改名されました。

宝山郷には10の村があり、総面積は64平方キロ、人口は約15,000人です。主な産業は農業で、かんきつ類、オリーブ、緑竹筍などが有名です。

宝山郷と隣接する新竹市には、TSMC本社のある「新竹科学園区(新竹サイエンスパーク)」が整備され、宝山郷にも新たなTSMCの工場が立地するなど科学技術の町としての顔も持っています。

宝山郷は変貌を続けており、レジャーや観光との相乗効果、農業とテクノロジーのバランスの取れた発展により、その名にふさわしい「宝山」になることが期待されています。

邱振璋郷長あいさつ

この度私たちが友好交流の絆を結ぶことを大変嬉しく思います。

宝山郷は豊富な生物資源と美しい景色があり、親切・勤勉で人との交流を楽しむ町民が多く住む魅力的なところです。

私たちは菊陽町との交流、協力を非常に重視しています。TSMCの工場立地や相互の訪問と文化交流を通して、友情と理解を深めることができると確信したからです。今後、さらに多くの交流の機会を設け、お互いに経験を共有し知恵を学ぶことで、双方の発展を促進させましょう。



緑竹筍(青たけのこ)

宝山郷は丘陵地形で、砂土層の透水性が良く日照量が豊富なため、緑竹筍を栽培するのに適しています。見た目、肉質、色、柔らかさ、糖度を審査する品評会が毎年6月に開催されています。



双子が多い

宝山郷は台湾全土で最も双子の割合が高く、その理由は、住民が1年中、村の古井戸の水を飲んでいるためという伝説があります。



宝山ダム

新竹サイエンスパークに隣接する宝山郷には、工業用水を供給するために「宝山水庫」と「宝山第二水庫」の2つのダムが整備されています。(写真は宝山第二水庫)



宝山郷を知る4つのキーワード

橄欖(オリーブ)

植物界の「エメラルド」と呼ばれるオリーブは、葉も実も利用でき栄養価が高いです。砂糖漬けのドライオリーブに加工し、おやつとして食べられています。子どもたちが棒を使い実を落として収穫しています。(写真)



菊陽町・寶山郷 友好交流協定締結式



協定書を持つ吉本町長と邱郷長

台湾新竹県宝山郷と 友好交流協定を締結

総合政策課 企画政策係 ☎(232)2112



協定書



みどり園の園児がお出迎え

7月18日、TSMC(JAS)の進出を受け、交流を行ってきた台湾の新竹県宝山郷と友好交流協定を締結しました。

役場で行った締結式には、吉本町長や宝山郷の邱振璋郷長を始め、町と宝山郷の交流のきっかけをつくった台北駐福岡経済文化弁事処の陳銘俊処長も来賓として出席し、盛大に行いました。

町と宝山郷は、TSMCの工場立地や、農業が盛んで田園風景を残しつつ発展している点など、数多くの共通点があることから交流を進めてきました。



夕食会に登場したくまモンと記念撮影

©2010熊本県くまモン

式では吉本町長が「共通点を持つ町と宝山郷が、友好交流を通じてお互いを身近に感じ、文化や経済をより深く理解していくことで、双方の発展に向けた連携を築くことができると信じております。そして、宝山郷との友情が、熊本県と台湾、さらには日本と台湾の関係にも貢献していくことを心から願っています」と挨拶しました。

今後はこの協定を基に、農業、商業、教育、文化、スポーツ、観光などさまざまな分野での交流を進めていきます。